

## 硫黄島レポート

島田 温史(農学研究科 生物生産学専攻)

今回私は鹿児島市から南西へ 100~150km の洋上にある硫黄島という離島に行きました。硫黄島は周囲 14.5km、面積 11.7km、ツバキ、ツツジ、車輪梅の原生林や野生化した孔雀などが見られる小さな島です。主な産業としては畜産と漁業があり、温泉や名所旧跡(安徳天皇・僧俊寛)など豊富な資源を生かした観光も盛んな島です。

今回硫黄島に訪れてさまざまなことを感じました。まず、自然の豊かさです。硫黄島は活火山である硫黄岳の影響により、島のいたる所から温泉が湧いています。流れ出た温泉と硫黄が黄緑色や赤色に海の色を染め、青い部分とのコントラストが幻想的できれいでした。日本の名湯百選に選ばれている温泉のひとつである東温泉、毎年開催されているヨットレース「みしまカップ」など自然を満喫できる観光資源も充実しています。また、夜の星空は都会ではまず見られないほどきれいでまるでプラネタリウムのようなようでした。今後もこれらの自然を体験できるツアーなどを考え、観光資源にしていってほしいと思いました。



次に農業についてです。主に畜産が盛んで黒毛和牛の生産をしています。飼料を島内で確保することなどにより低コストで経営し、人工授精などの技術向上により生産技術も向上することで年々収入を増やしています。一方、農作物は硫黄岳から出る亜硫酸ガスや酸性土壌よりホウレンソウなどの軟弱野菜、その他の多くの農作物が育たません。黒島ではグアバやサツマイモを栽培し、それを加工して売っています。黒島で栽培されているグアバやサツマイモは基本的にどこでも栽培できる作物なので、硫黄島でも栽培に挑戦してみてもいいかなと思いました。栽培に成功すれば新たな島の特産物になるのではないかなと思いました。



最後に島の人の明るさです。船が到着したときアフリカギニアの伝統音楽「ジャンベ」で出迎えてくれました。そのとき同じ日本とは思えませんでした。夕方には 6 月堂という祭りに参加しました。小学生や中学生、島の人たちがジャンベを披露してくれ、あの独特のリズムが印象的でした。祭りの間、気さくに話しかけてくれたりジャンベと一緒に踊ったりと島の人とふれあうことができ、島の人々の明るさを感じることができました。硫黄島ならではのジャンベという音楽が島の生活の一部になることによって、島の人たちの明るさに繋がっているのだとこの祭りに参加して思いました。このような独特の文化はとても魅力のあることだと思うので、ジャンベをメインにした祭りや島外での演奏会をもっと増やし、



世間に知ってもらうことで観光客も増えていくと思いました。

私は離島に行くのは今回が初めてでした。島独特の自然や文化、雰囲気などをとても貴重な体験ができました。今後また機会があれば鹿児島県の他の島々や日本全国の島々に行ってみたいと思います。